小淵沢町埋蔵文化財調査報告第７集

小淵沢町加室遺跡

―― 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

１９８９

峡北土地改良事務所

小淵沢町教育委員会

小淵沢町埋蔵文化財調査報告第７集

小淵沢町加室遺跡

―― 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

１　９　８　９

峡北土地改良事務所

小淵沢町教育委員会

序　　文

小淵沢町は山梨県の西北端に位置し、八ケ岳山麓の上に営まれた町であり、自然の環境に恵まれその恩恵を受けてきた町です。又当町は山梨にあっても極めて多くの埋蔵文化財が残された地域で、埋蔵文化財の豊庫といっても過言ではありません。

さてこのたび久保地区県営圃場整備事業に伴ない、昭和63年7月1日より同年9月14日まで加室遺跡の発掘調査を実施いたしました。調査の結果、遺構は検出されませんでしたが、縄文時代の石器、江戸時代の陶磁器が出土し、小淵沢町の歴史に新しい貴重な資料を加えることができ意義深い成果をおさめることができました。この発掘調査で得られた石器や陶磁器は今後、小淵沢町郷土資料館に展示し、社会教育の場をとおし生きた歴史資料として活用してゆく所存です。その意味においても本報告書が今後の文化財保護の資料として活用されまして郷土の文化財保存と研究のために多少なりとも寄与できますことを願うものであります。

平成元年3月

小淵沢町教育委員会

教育長　清　水　金　富

例　　言

1. 本書は小淵沢町久保地区県営圃場整備事業に伴う加室遺跡の発掘調査報告書である。

2. この発掘調査は、峡北土地改良事務所との負担協定により、文化庁、山梨県の補助金を受けて小淵沢町教育委員会が実施したものである。

3. 発掘調査は、昭和63年７月１日から昭和63年９月14日まで実施した。

4. 本書の編集は、佐野勝広が行った。

5. 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の方々に御助言、御協力を頂いた。記して謝意を表す次第です。
   櫛原功一、坂本美夫、新津健、山路恭之助

6. 発掘調査で出土した遺物は、町郷土資料館において保管している。

7. 発掘調査事務局
   清水金富（教育長）、長坂今朝寿（課長）、横内吉男（社会教育主事）、佐野勝広

8. 発掘調査参加者
   小林恒子、坂井ふじ、進藤美恵、三井ちか代

目　　次

Ⅰ　環　境 …… 1
Ⅱ　発掘調査の経過 …… 10
Ⅲ　遺　構 …… 10
Ⅳ　遺　物 …… 11
Ⅴ　結　言 …… 14

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　調査区域図 …… 3
第３図　遺跡分布図 …… 9
第４図　出土遺物実測図（石器） …… 16
第５図　出土遺物実測図（石器） …… 17
第６図　出土遺物実測図（石器） …… 18
第７図　出土遺物実測図（石器） …… 19
第８図　出土遺物実測図（石器） …… 20
第９図　出土遺物実測図（ほうろく） …… 21
第10図　出土遺物実測図（陶磁器） …… 22
第11図　出土遺物実測図（陶磁器） …… 23
第12図　出土遺物実測図（陶磁器） …… 24
第13図　出土遺物実測図（陶磁器） …… 25

第Ⅰ章　環　　境

1、自然的環境

(1)　小淵沢町の地形、山系、水系、湧水（第　図）

小淵沢町は主峰赤岳から南方に拓せる山岳帯および耕地・集落のある山麓帯からなる。八ケ岳南麓は、赤岳（2899メートル）、阿弥陀岳（2807メートル）、権現岳（2704メートル）、編笠山（2524メートル）、西岳（2365メートル）を連峰の頂点として、海抜1100メートル以下の山麓よりなる。山岳帯の山岳は、主峰の火山列から放射状に発達している。小淵沢町には権現岳・編笠山・観音平の山系がある。小淵沢町における山麓は1100～600メートルをいう。山麓帯は行政の中心である役場、教育文化の中心である学校、公民館それに地域住民の先祖伝来の生活の基盤である住宅、耕地があり、耕地は山麓帯の大部分の面積を占めている。中央線小淵沢駅を中心に工業、商業が発達している。水系は八ケ岳南麓に甲六川・女取川・古杣川・甲川・川俣川がある。当町における主な河川には、甲六川・女取川・小深川がある。これらは釜無川に注いでいる。甲六川は編笠山の南麓1300メートルから県境に沿って南下する。女取川は編笠山南方海抜1200メートルより源を発し、長坂町から小淵沢町篠原、篠八田、小野、神田を経て、深沢川、大深川となる。小深川は観音平の南1180メートルに源を発し、小淵沢町のほぼ中央に流路をとり、釜無川に注いでいる。湧水の主なものには、井詰湧水、大滝湧水、根山湧水、平井出湧水がある。井詰湧水は当町の西北小井詰神社から湧出し、流末は数条に分かれ旧小淵沢村全域の飲用とかんがい用水となっている。大滝湧水は大滝神社境内より湧出し、数条の堰によって旧篠尾村の主たる飲用、かんがい用水になるほか、東泉は松向堰によって松向と旧清春村の大半の用水となっている。根山湧水は尾根地区の北方字根山地内一帯から湧出し、主として尾根、宮久保地区の飲用、かんがい用水となっている。

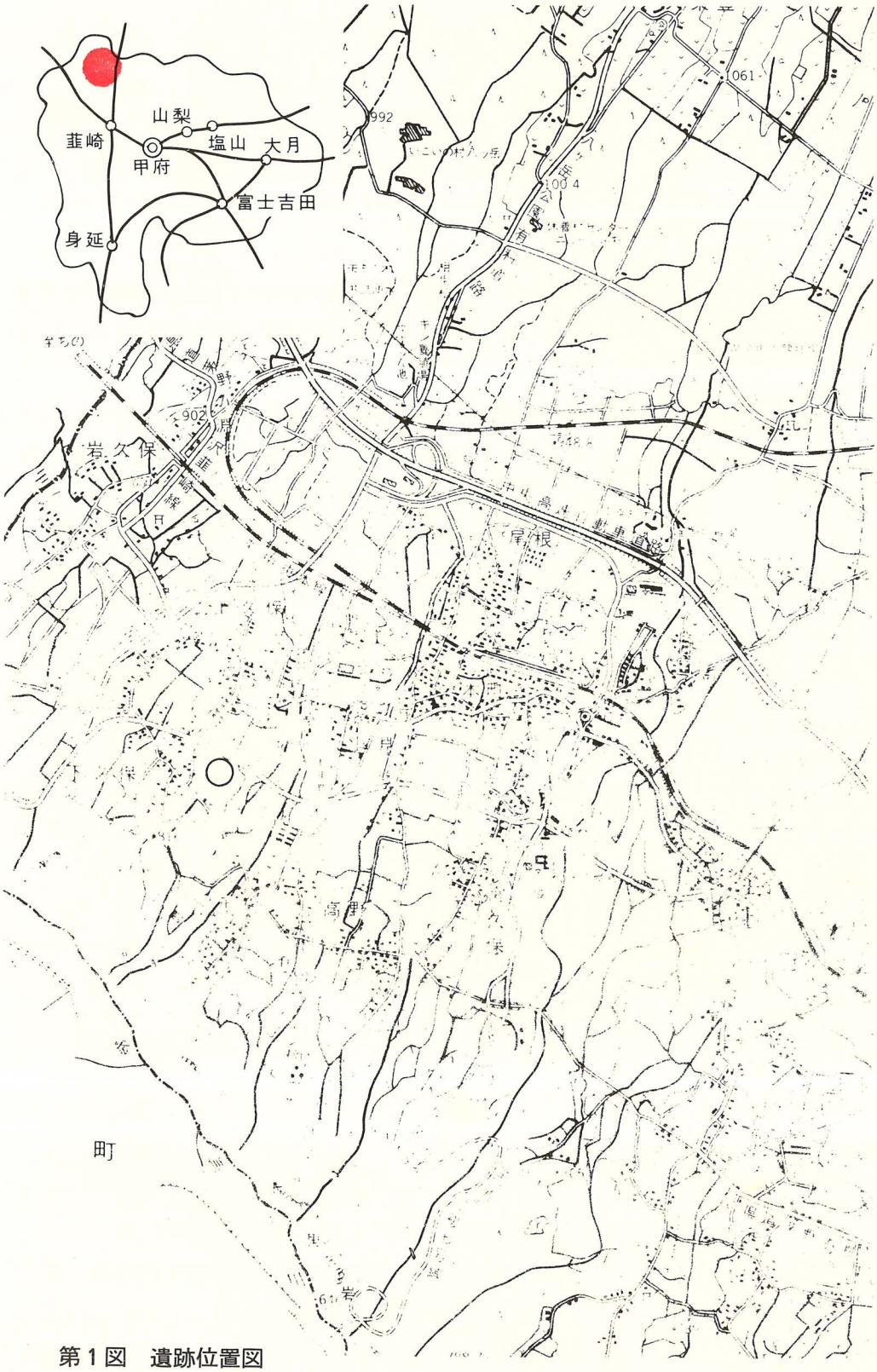
(2)　小淵沢町の地質（第　図）

小淵沢町における地質は、基盤岩類（甲斐駒花崗岩類）、これを貫ぬく八ケ岳火山列からなる。

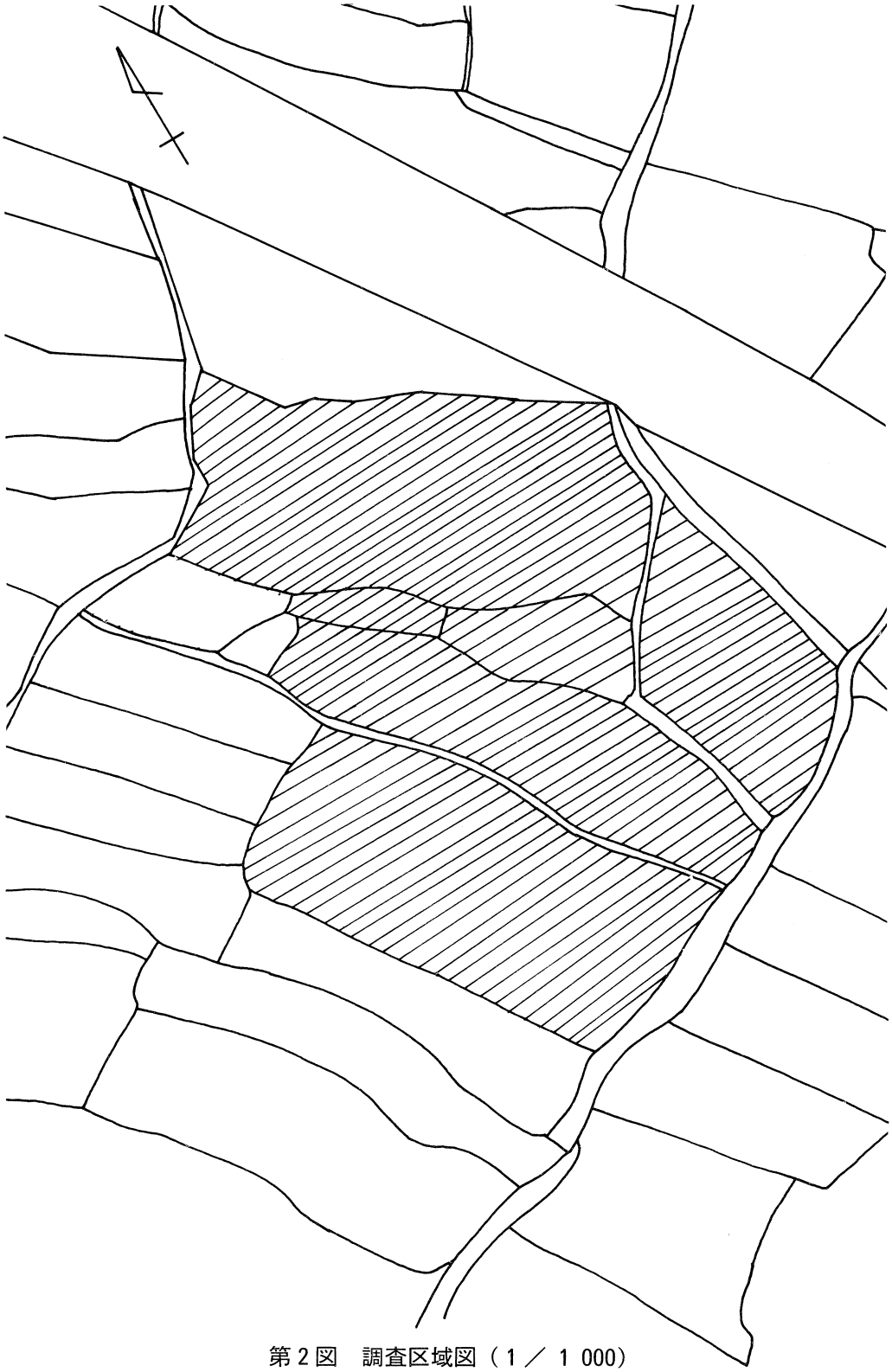
3、地理的環境

(3)　小淵沢町の位置

小淵沢町は山梨県の北西部にあり、八ケ岳連峰の権現岳（2704メートル）を頂点とする南西傾斜の広大な台地に位置している。面積は3426ヘクタールをはかり、北から南に延びくさび形をしている。小淵沢町は北巨摩郡に属し、北から南にかけて長坂町と接し、釜無川を境に白州町と接し、甲六川を境に長野県の富士見町と接している。小淵沢町の交通は京浜地区と甲信地区を結ぶＪＲ中央線が北西から南東へ通っており、中央よりやや西側にＪＲ小淵沢駅がある。八ケ岳南麓の交通として、ＪＲ小海線があり、小海線は小淵沢駅を起点とし、小海を経て小諸に至る。一方主要道路は県道小淵沢韮崎線、長沢小淵沢線がある。また八ケ岳南麓の観光開発



第１図　遺跡位置図



第２図　調査区域図（１／１ 000）

的性格を有する八ケ岳横断道路があり、横断道路と直交するように中央高速道路が通っている。

2、歴史的環境

(1) 小淵沢町の遺跡

加室遺跡のある小淵沢町は、長野県と接する八ケ岳南麓の上営まれた町であり、八ケ岳南麓は縄文時代の故郷ともいわれ、全国的に有名な遺跡がある。昭和53年に行なわれた遺跡の分布調査から時代別にみてゆくと、先土器時代は、松向の杉の木平遺跡、上笹尾の夏秋遺跡があり、杉の木平遺跡からは縦長剥片、夏秋遺跡から細石核が出土している。縄文時代は、早期及び前期の遺跡は発見されていない。中期の遺跡は60カ所確認され、特に曽利式期が最も多い。
後期、晩期の遺跡は、上笹尾の雪車、源氏籠などで、後期から晩期の遺物が発見されている。
弥生時代の遺跡は、上笹尾の雪車、茶屋2棟その他15カ所の遺跡が発見されている。小淵沢町では古墳時代と奈良時代の遺跡は発見されていない。平安時代の遺跡は26カ所発見されている。

(2) 江戸時代の加室遺跡周辺

加室遺跡周辺は、むかし小淵沢村に属していた。『甲斐国志』(文化11年)に高九百五拾弐石八斗八升九合、戸三百九拾壱　口千五拾五（男七百九拾四、女七百六拾壱、馬弐百四拾）上笹ノ西ナリ信州ノ境下ノ棒道口留番所アリ、府へ九里半、鰍澤へ拾壱里、諏訪郡下蔦木へ壱里とある。『北巨摩郡誌』（大正四年）に舊来小淵澤村と称す其名の基因を考ふるに村の中央字淵平に小さき瀦水あり名づけて小淵といふ東西両界及び所々に小澤あり之れその因って来る所ならんとあり小淵の名の由来を述べている。

No.	遺跡名	所在地	地目	地形、標高	遺物	備考
1	上前後沢	岩久保上前後沢	畑、桑	尾根 940	縄文中（新道、曾利）、平安	
2	下前後沢	岩久保下前後沢	畑、桑、山林	〃 860	縄文中（五領ヶ台）、平安	
3	岩窪	岩久保、岩窪、岩窪前	畑、桑、宅地	〃 850	縄文前（諸磯B、十三菩提）中（五領ヶ台、藤内、曾利）	㊍信濃14の3 S37. 武藤 孟㊐大阪市立博物館、町教育委員会㊐岩窪前 S38. S47.
4	上宮原	岩久保、下原、上久保、上宮原	畑、桑、山林	〃 820	縄文中（五領ヶ台、曾利）	㊐下原遺跡 S38. S47.
5	竹原	上久保竹原、宗高、上宮原	桑	〃 870	縄文中（井戸尼、曾利）平安	㊐宗高B遺跡 S47.
6	宗高	上久保宗高	畑、桑、山林	〃 890	縄文中（曾利）後（堀の内）	㊐宗高A遺跡 S47.
7	中原	上久保中原	畑、牧草、桑	〃 920	縄文中（五領ヶ台、新道、藤内、井戸尻、曾利）後（堀の内）平安	㊍山梨県中央道発掘調査報告書 S49. ㊐山梨県教育委員会、井戸尻考古館
8	上井詰	上久保上井詰	山林、畑	〃 940	縄文前（諸磯C）中（井戸尻、曾利）後期	㊐進藤亮三 S38
9	淵平	尾根淵平	宅地、畑	〃 850	縄文中（井戸尻、曾利）	S38.
10	天神宮	上久保、天神宮 下久保、東窪	宅地、畑	〃 840	縄文中（五領ヶ台、新道、藤内、井戸尻、曾利）後（堀の内）	㊐小林潤三（八ヶ岳山荘） ㊐東窪 S47.
11	下久保	下久保石上り	畑	〃 820	平安	
12	加室	下久保加室	畑、桑	〃 810	縄文前（十三菩提）中（五領ヶ台、井戸尻）	
13	高野	高野舟久保	桑、宅地	〃 820	縄文前、中（井戸尻、曾利）後	S38.
14	殿平	高野殿平	宅地、畑	〃 850	縄文中（井戸尻、曾利）	S38. S47.
15	前窪	高野前窪	畑、桑	〃 790	縄文前（諸磯C）中、平安	
16	上八里田（宮久保）	宮久保上八里田	畑、桑	〃 820	縄文前（諸磯）中（藤内、曾利）	

No.	遺跡名	所在地	地目	地形、標高	遺物	備考
17	西屋敷	宮久保西屋敷、家の前	宅地、桑	尾根 830	縄文中、平安	
18	深沢	宮久保下深沢、上深沢	山林	〃 820	縄文前(諸磯A) 中期(曾利)	
19	上深沢 A	宮久保上深沢	宅地	〃 830	縄文中(曾利)	㊫町教育委員会
20	上深沢 B	〃 上深沢	墓地	〃 850	一字一石経70コ	㊫名取保
21	原東沢	〃 原東沢	宅地、畑	〃 870	縄文中、晩(後半)	㊫大正堂
22	小淵沢中学校々庭	〃 古番屋	学校	〃 910	縄文中、弥生(中)	㊫小渕沢中学校
23	上平井出	宮久保上平井出	道路、宅地、畑	〃 910	縄文中(五領ヶ台、藤内、井戸尻、曾利)後(称名寺、堀の内、加曾利B)平安	㊢下平井出 ㊧山梨県中央道報告書 S49. ㊥県教育委員会
24	下平井出	宮久保下平井出	道路、桑	〃 900	縄文中(曾利)	
25	茶屋久保	上笹尾、茶屋久保	桑、宅地	〃 870	縄文前(十三菩提)弥生中	
26	夏秋	上笹尾、夏秋	桑、畑	〃 850	縄文前(諸磯C)中(五領ヶ台、曾利)弥生中、(先土器)	
27	中深沢	上笹尾、中深沢	桑、畑、山林	〃 800	縄文中	
28	加倉 B	下笹尾加倉	畑	〃 800	縄文前(十三菩提)中(五領ヶ台)	S47
29	加倉 A	下笹尾加倉	畑、山林	〃 790	縄文中	S47. ㊢天狗岩
30	田頭	下笹尾田頭、天狗岩	畑、桑	〃 790	縄文前(諸磯C)中(井戸尻、曾利)弥生中	
31	耕地久保	下笹尾耕地久保	桑	台地 770	縄文中	
32	笹尾塁跡	下笹尾耕地久保	桑、山林	尾根 750	縄文前(諸磯)中世	㊧笹尾塁跡(町教委)
33	雪車	上笹尾雪車、下笹尾宮の前	畑、宅地	〃 790	縄文中(曾利)弥生中	
34	源氏籠	上笹尾源氏籠	畑、水田	〃 800	縄文早、前(諸磯A、B)中(五領ヶ台、新道、藤内、井戸尻、曾利)後(堀の内)晩(氷)弥生中	㊫今井兵衛

No.	遺跡名	所在地	地目	地形、標高	遺物	備考
35	長尾根	上笹尾長尾根	畑、水田	尾根 820	縄文前（諸磯C）中（五領ヶ台、曾利）弥生中、平安	
36	滝の前	上笹尾滝の前	水田、畑	斜面 870	縄文前（諸磯B）中（井戸尻、曾利）後（堀の内）	S38.
37	中林	上笹尾中林2166	宅地、桑、畑	尾根 820	縄文中、平安	
38	御崎	上笹尾御崎	畑、桑	窪地 790	縄文中、平安	
39	鼠尾(ネゾー)	上笹尾鼠尾	宅地、畑、桑	尾根 790	縄文前（諸磯B） 縄文中（五領ヶ台、藤内、曾利） 後（堀の内）弥生中、平安	㊫青木春重 ㊧根造 S47.
40	寺田	上笹尾寺田	宅地、桑	〃 795	縄文中、平安	
41	江戸山	下笹尾江戸山	桑	〃 780	縄文前（十三菩提）中（曾利）弥生中、平安	
42	西堀込南	上笹尾西堀込	桑	〃 800	弥生中	
43	西堀込北	上笹尾西堀込、高原	桑、畑	〃 810	縄文前（諸磯B）中（五領ヶ台、曾利）	㊧高原 S38. S47.
44	上駒場	上笹尾上駒場	桑、牧草	丘陵 840	弥生中	
45	穴之沢	上笹尾穴之沢	桑、牧草	尾根 840	縄文中（五領ヶ台）	
46	西三蔵主	上笹尾西三蔵主	桑、畑	〃 840	縄文前（諸磯C）中（五領ヶ台）平安	
47	柳沢北	松向柳沢	桑、山林	斜面 820	縄文中（五領ヶ台）	
48	宝ヶ森	松向宝りヶ森	桑、畑	〃 800	縄文中、古墳時代	
49	本村	松向本村	桑、宅地	〃 780	平安	
50	前田北	下笹尾前田北	桑、宅地、水田	〃 770	縄文前（諸磯B）中（曾利）平安	
51	深町	松向深町	桑、畑	〃 770	縄文中（五額ヶ台、曾利）平安	

No.	遺跡名	所在地	地目	地形、標高	遺物	備考
52	前田南	下笹尾前田南	水田、畑、桑、	丘陵 750	縄文中（曾利）後（堀の内）平安	
53	蔵屋敷	下笹尾蔵屋敷	畑、宅地	斜面 740	縄文中、平安	
54	向原	下笹尾植木林向原	桑、山林	丘陵 740	縄文中（藤内）弥生中	
55	頭佐沢南	下笹尾頭佐沢	山林、桑、牧草	尾根 710	縄文中、弥生中	
56	頭佐沢北	下笹尾頭佐沢	桑、山林	〃 730	縄文中	
57	横山	松向横山	桑、山林	斜面 810	縄文中	
58	杉の木平	松向杉の木平	桑、畑	〃 810	(旧石器) 縄文中、平安	
59	柳沢南	松向柳沢南	桑、山林	尾根 810	縄文中	㊧柳沢 S47.
60	神田	松向神田	桑、牧草	〃 840	縄文晩、弥生中、平安	㊧神田とは別遺跡
61	小野	上笹尾女取区小野	桑、畑	〃 870	縄文中（井戸尻、曾利）平安	
62	広面南	松向広面	桑、畑、山林	丘陵 710	縄文中（曾利）平安	
63	広面北	松向広面	桑、畑	微高地 710	平安	
64	篠八田	上笹尾女取区篠八田	桑、畑	尾根910	縄文中（曾利）晩(未)弥生中	㊧篠原御料地 S38. S47.
65	上庄	尾根上庄	宅地、畑	斜面 890	縄文中（曾利）平安	
66	天神森	尾根天神森	宅地、畑	斜面 900	縄文中（井戸尻）弥生	
67	西上庄	尾根西上庄	宅地、畑	尾根 920	縄文中	削平されて消滅か(？)

（註） 1．備考の㊧はS38．47年に行なわれた分布調査台帳名である。

2．㊫は所有者及び保管場所を示している。

3．㊤は文献を表わしている。ただし、この他に北巨摩教育会「先史原史時代調査」昭和7年、仁科義男「甲斐の先史原史時代調査」昭和10年、山本寿々雄「甲斐石器時代遺物発見地名表」昭和30年等の文献がかる。

4．遺跡は全て踏査し、その表面採取資料から時代を明示したが、一部過去の台帳より引用している。

坂
町
白
州
町
至ちの
至こもろ
至清里
至東京方面
至こ
至韮崎
上諏訪
国道20号線
国鉄小海線
国鉄中央本線
中央高速自動車道
岩久保
上久保
下久保
本町
尾根
南野
宮久保
上笹尾
下笹尾
松向
女取
樋原
N
1 : 25,000
0
500
1000
1500
2000
2500

第3図　遺跡分布図

第Ⅱ章　発掘調査の経過

1、調査に至る経過

小淵沢町は農業の近代化を図り、豊かな地域づくりをめざして、昭和55年度から県営圃場整備事業を実施している。それに伴って昭和57年から埋蔵文化財の発掘調査が行なわれている。昭和63年度に久保工区の加室の約9ヘクタールが圃場整備事業の対象として予定された。このため小淵沢町教育委員会は、埋蔵文化財の有無を確認のため昭和62年12月に試掘調査をおこなった。その結果、縄文時代の遺物が出土したため、県文化課、峡北土地改良事務所、小淵沢町土地改良区、小淵沢町教育委員会で協議のうえ、峡北土地改良事務所の委託により、昭和63年度県営圃場整備事業に先立って小淵沢町教育委員会が発掘調査を行なうことになった。

2、遺跡の位置

加室遺跡は、山梨県北巨摩郡小淵沢町久保字加室に所在する。標高815～828メートルの八ケ岳南麓の緩やかな南傾斜地に立地している。

3、調査の方法と経過

発掘調査の方法は調査区全体の表土層を重機により排土し、その後、遺構確認面まで人力によって、掘りさげた。遺構の調査を行なうために、磁北に基づいた東西南北を基準線とする10メートル×10メートルグリッドを設定し、西から東へA……Ⅰ、北から南へ1～15の組み合せによって各グリッドを表示した。

発掘調査は昭和63年7月1日より開始し、昭和63年9月14日まで行ない。出土品等の整理は昭和63年3月まで行なった。

4、層　序

第1層　耕作土（茶褐色土　粘性弱く、ローム粒を含む）

第2層　床土　（赤褐色土、鉄分を多く含む）

第3層　黒褐色土（礫、炭化物が含まれている。遺物の包含層である。）

第4層　黄褐色土（ソフトローム）

第5層　黄色土（ハードローム、地山と呼ばれる層である）

第Ⅲ章　遺　　構

遺物は数多く出土したが遺構は認められなかった。

第Ⅳ章　遺　　物

縄文時代の遺跡

本遺跡より出土した縄文時代の遺物は、石器が多く出土した。特に打製石斧が多くみられる。石器に関わる内容は、石器一覧表に示す。

石　器　一　覧

図番号	種　別	長さcm	幅　cm	厚さcm	重量 g	形　態	石　　材
1	打製石斧	15.0	5.4	2.0	235	短冊形	ホルンフェルス
2	打製石斧	12.9	5.5	1.2	145	短冊形	粘板岩（ホルンフェルス化）
3	打製石斧	12.3	5.5	2.0	240	撥　形	硬砂岩
4	打製石斧	11.5	4.0	1.8	140	撥　形	硬砂岩
5	打製石斧	11.0	5.0	1.4	85	短冊形	ホルンフェルス
6	打製石斧	9.9	6.8	2.8	330	短冊形	ホルンフェルス
7	打製石斧	9.4	4.0	0.9	65	短冊形	ホルンフェルス
8	打製石斧	7.5	3.4	1.0	50	短冊形	粘板岩
9	打製石斧	8.1	4.3	0.6	60	短冊形	ホルンフェルス
10	打製石斧	9.0	5.9	1.3	60	短冊形	ホルンフェルス
11	打製石斧	8.2	4.0	0.8	50	短冊形	ホルンフェルス
12	打製石斧	9.0	4.0	1.0	65	短冊形	スレート
13	打製石斧	6.8	3.9	1.4	55	短冊形	ホルンフェルス
14	打製石斧	6.5	4.8	1.0	55	短冊形	硬砂岩
15	打製石斧	5.4	3.9	1.6	55	短冊形	硬砂岩
16	打製石斧	7.6	6.6	1.8	105	短冊形	ホルンフェルス
17	打製石斧	4.0	4.0	0.6	20	短冊形	硬砂岩
18	石　　匙	5,5	5.6	0.3	35	短冊形	スレート
19	石　　匙	7.9	2.0	1.2	15	短冊形	粘板岩
20	横刃形石器	6.2	2.8	1.0	25	短冊形	硬砂岩
21	横刃形石器	8.0	4.0	1.0	50	短冊形	ホルンフェルス
22	横刃形石器	8.8	4.9	0.9	60	短冊形	スレート
23	横刃形石器	9.8	4.8	1.2	70	短冊形	スレート
24	横刃形石器	10.2	3.8	0.7	50	短冊形	硬砂岩
25	横刃形石器	3.0	4.0	0.2	2	短冊形	ホルンフェルス

図番号	種　別	長さcm	幅　cm	厚さcm	重量 g	形　態	石　　材
26	横刃形石器	8．2	4.2	0.9	45	短冊形	硬砂岩
27	横刃形石器	4．3	3.8	1.5	20	短冊形	黒曜石
28	横刃形石器	5．2	2.3	1.0	1	短冊形	硬砂岩
29	横刃形石器	4．8	2.5	1.5	15	短冊形	黒曜石
30	横刃形石器	3．8	2.6	0.5	10	短冊形	硬砂岩
31	横刃形石器	7．5	3.1	1.0	30	短冊形	ホルンフェルス
32	横刃形石器	7．0	5.4	0.8	30	短冊形	ホルンフェルス
33	横刃形石器	5．5	2.5	0.5	10	短冊形	硬砂岩

江戸時代の遺物

焙　烙

3点ともに焙烙の破片である。1は、口縁端部がやや丸く、内稜は段状を呈する。胎土中に砂粒を多く含み、色調は外面黒褐色、内面淡褐色。2は、口縁端部平担で、内稜はごく弱い段をもつ。胎土中には少量であるが砂粒を含む、色調は外面黒褐色、内面淡褐色。3は、底部の破片であり　色調は外面黒褐色、内面淡褐色、外面に若干スス付着。

陶磁器（1）（第　図）

1は、外面に鎬蓮弁文をもつ青磁碗で、釉は緑味青色である。2は、小壷と思われ、白色の亀裂釉がかかる。3は、白色の亀裂釉のかかる壷である。4は、黄色味のある釉がかかる壷の部破片である。5は、内面に黄褐色の釉がかかるが外面の高台部は無釉である。

陶磁器（2）（第　図）

1は、鉄釉の茶碗で、江戸時代後期に瀬戸でつくられたものである。2は、光沢のある鉄釉がかかる。3と4は1と同様に鉄釉の茶碗であり、素地は白色を呈する。5は、染付茶碗で青色よって文様を描いている。高台部が低くつくられている。6は、くらわんかと呼ばれている染付茶碗であり、薄青色で文様を描いている。7は、薄青色で文様が描かれている茶碗である。8は、灰青色で文様を描いている。9は8と同様に灰青色で文様を描く。10は6と7に比べて高台部が薄く長くつられている。11と12は薄青色で文様を描いている。

陶磁器（3）（第　図）

1と2は、筒形茶碗であり、濃い青色で菊花文を描いている。3は、灰白色の釉がかかる。4は、光沢のある白色釉をかけ薄青色で文様を描いている。5は、薄緑色で線文を描く。6は、半光沢の鉄釉を外面に有し、底部は素焼きの地がでている。7は、茶褐色の釉がかかり、焼きはあまりよくない。8は、外面に鉄釉がかかるが内面は無釉である。9は、外面は無釉で、内面に亀裂釉がみられる。10は、白色の素地の上に黄色釉がかかつている。11は、白磁である。12は、光沢のある薄白釉がかかり、高台部に青色で線が一本描かれている。13は、小皿の破片であり、白い長石釉がかかつている。14は、内面に黄色味の亀裂釉がかかる小壷である。15は、内面に重ね焼きの跡が残る。16は、内面に黒色の鉄釉がかかる高台部の破片である。

鉄製品（第　図）

1と2は馬のひづめの底につけた蹄鉄である。3は、銅製のキセルで、竹を芯に使用している。

石製品（第　図）

3は、凝岩質の砥石であり、4面を使用している。

第Ⅴ章　結　　言

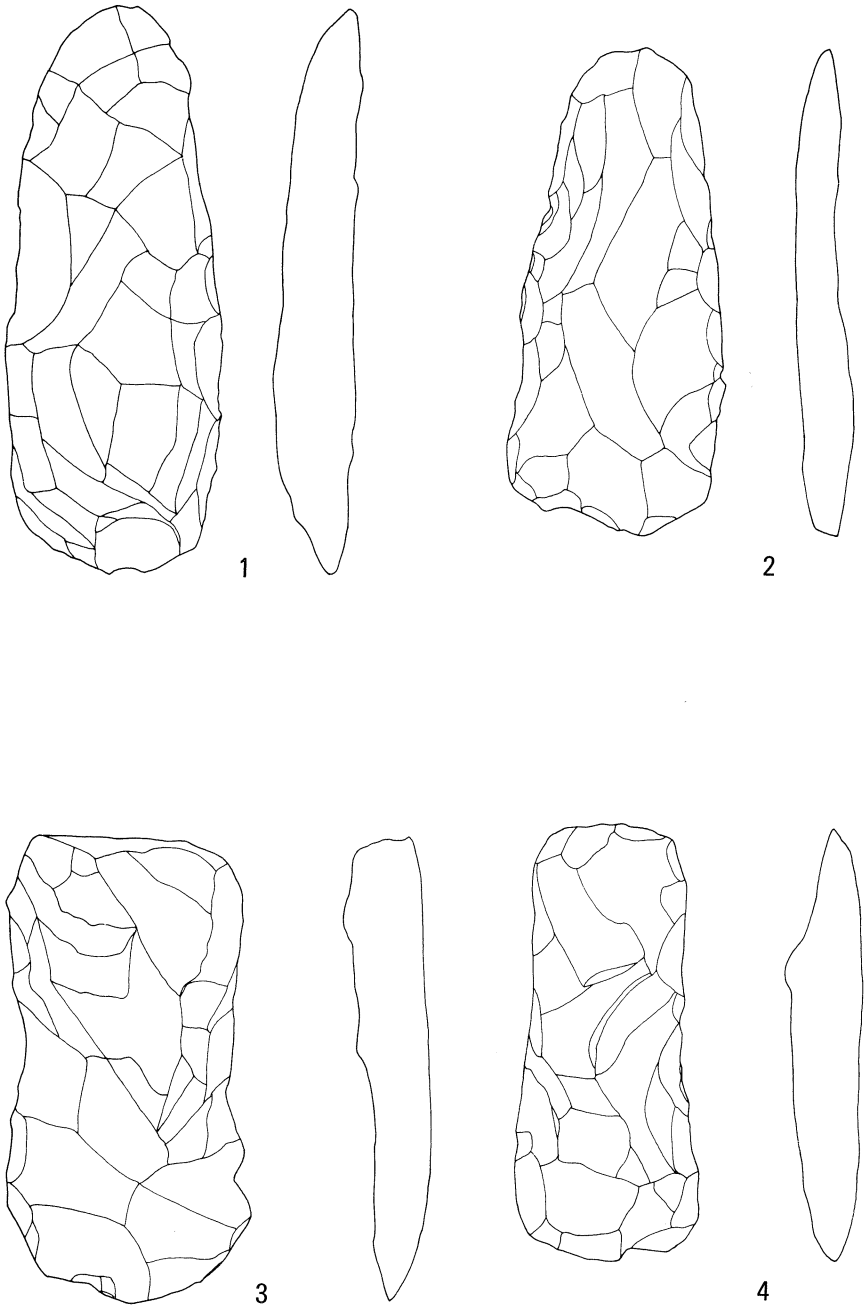
今回の調査では遺構は検出されなかった。
出土遺物は、縄文時代中期の石器と江戸時代末期の陶磁器が出土した。

石器について

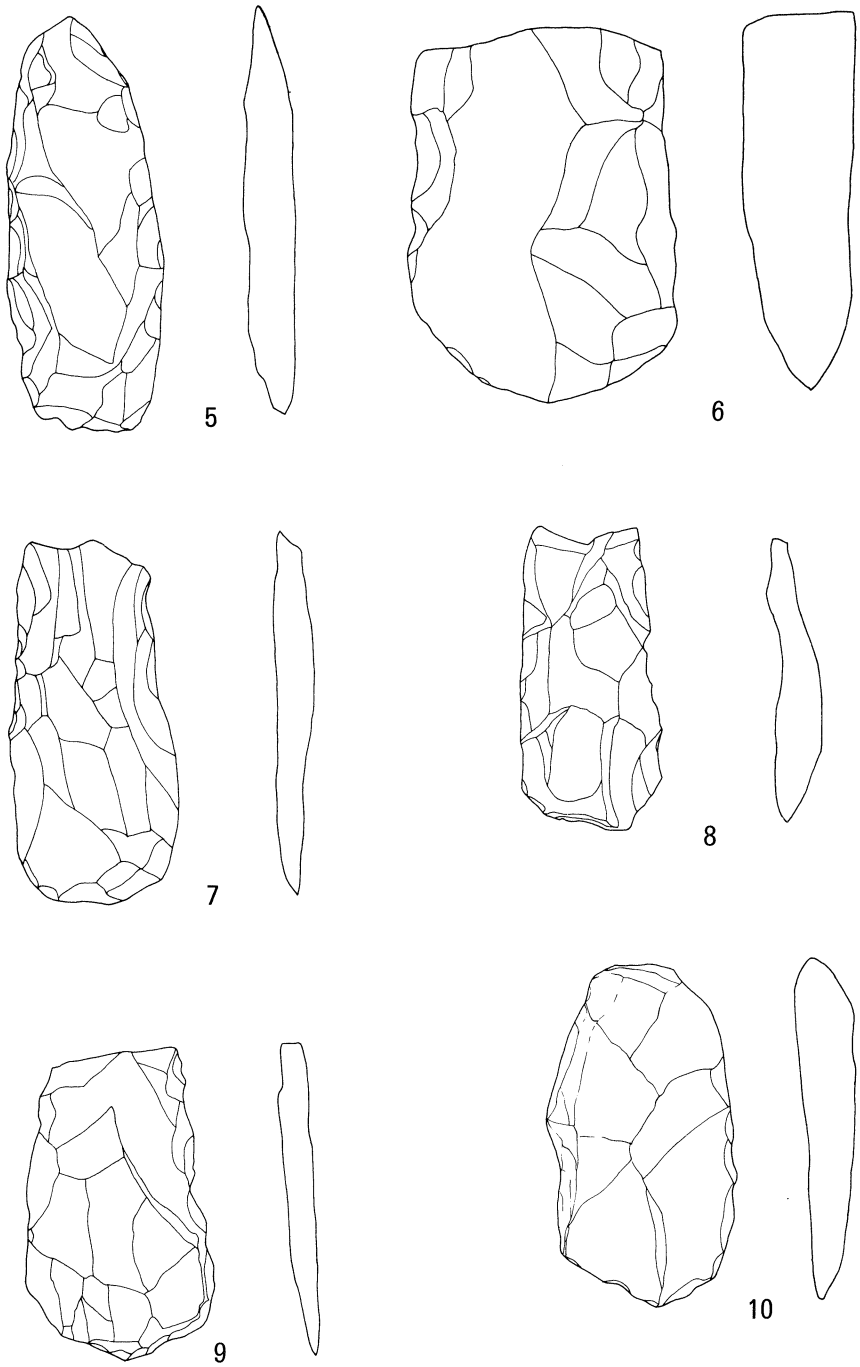
石器の大多数はホルンフエルスと硬砂岩性であり、これらは、遺跡周辺や釜無川から供給されたものである。石器の用途としては、打製石斧は、棒状の柄をたてにつけた鋤であろう。横刃石器のなかには、井戸尻考古館の小林公明氏のいうところの鎌形をしたものがみられる。

陶器については

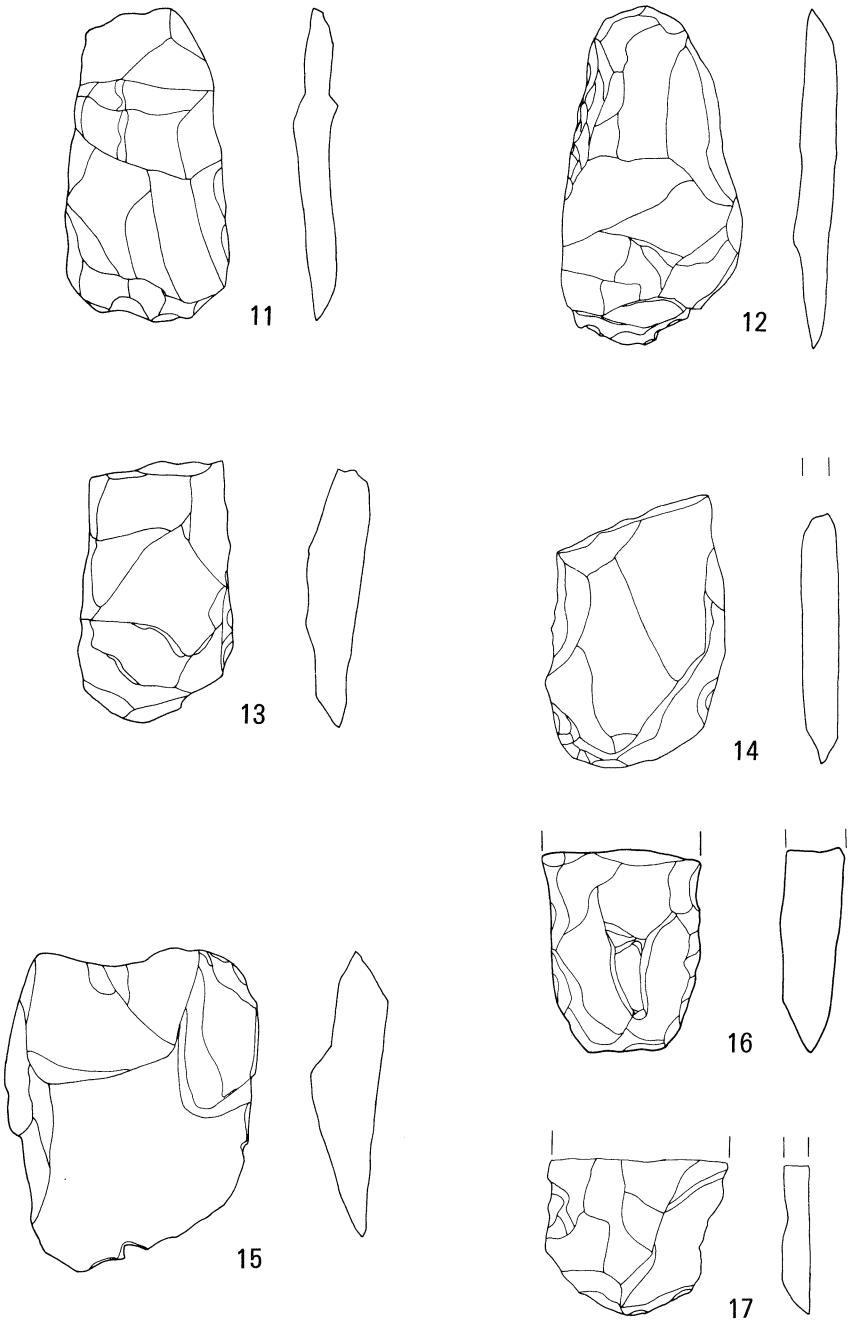
本遺跡の出土の陶器をみると染付の碗が多く基本的には18世紀後半のものであり、全て日常雑器として用られたものである。



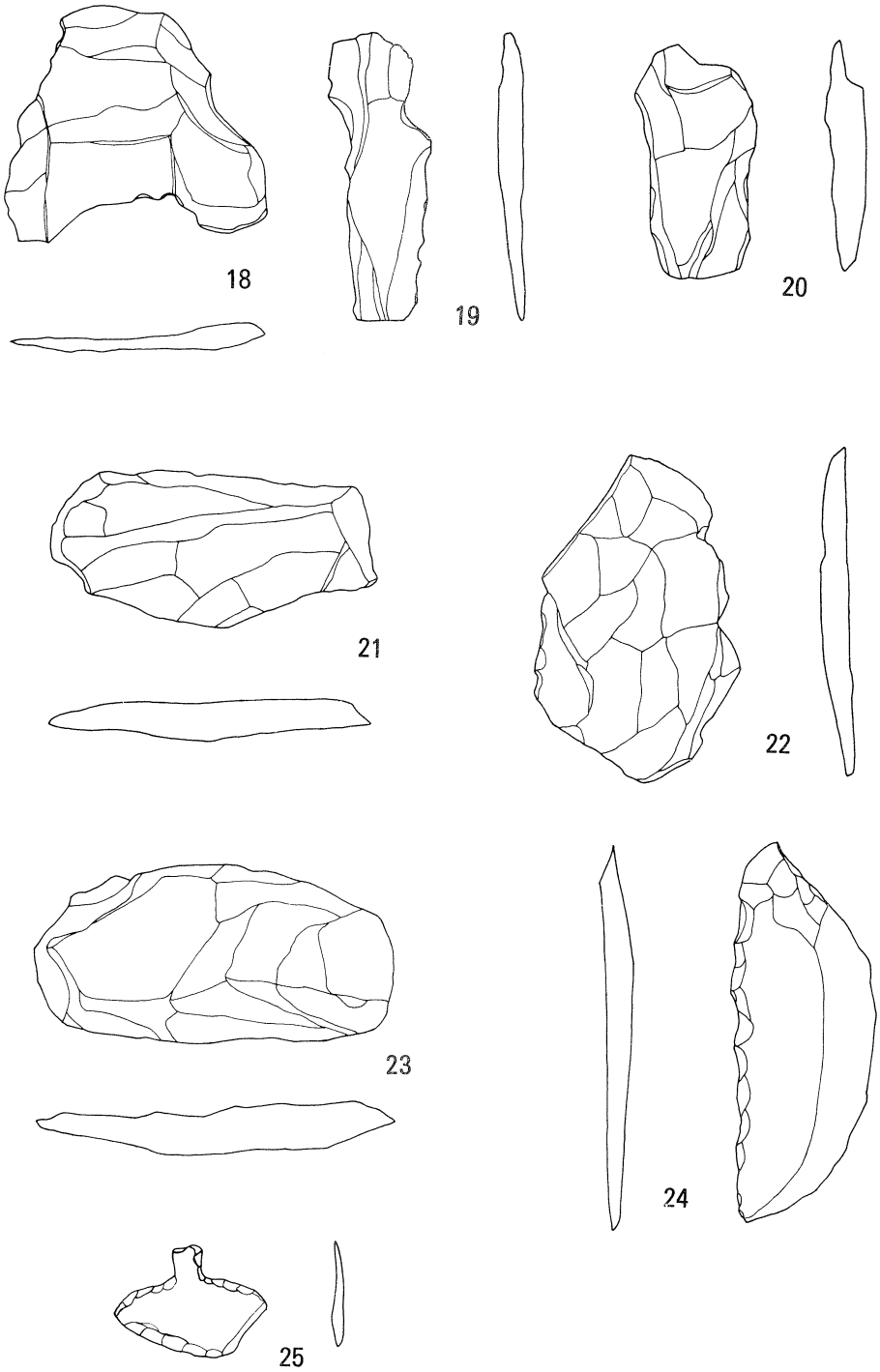
第4図　石　　器（1／2）



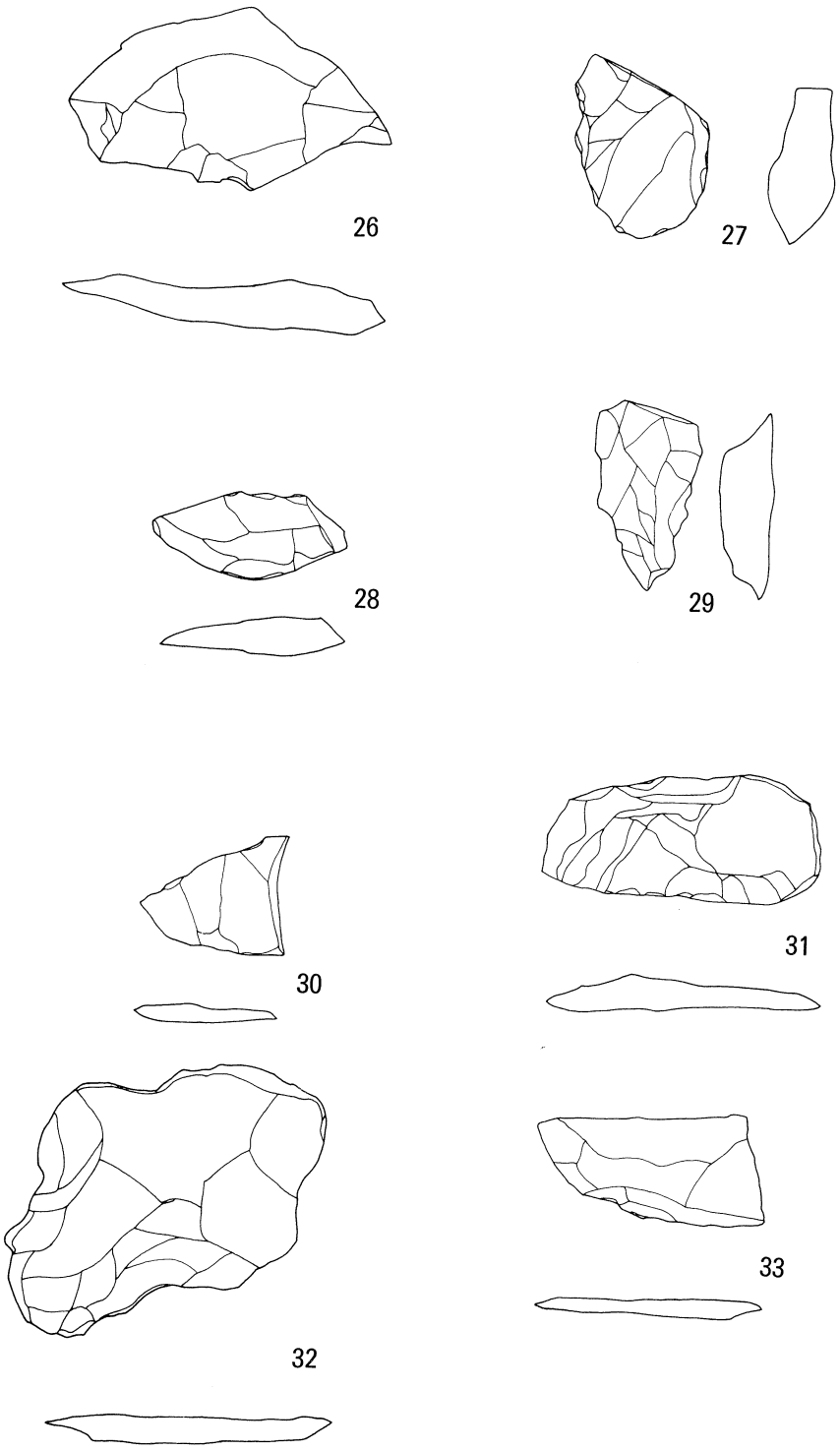
第5図　石　　器（1／2）



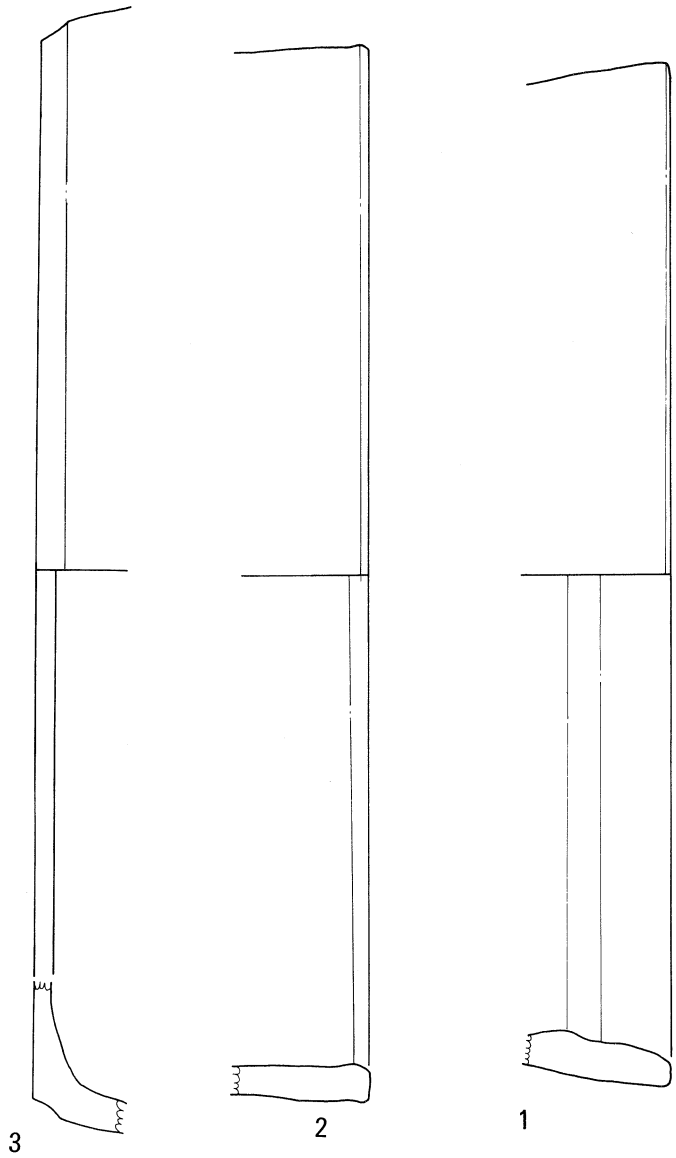
第6図　石　　器（1／2）



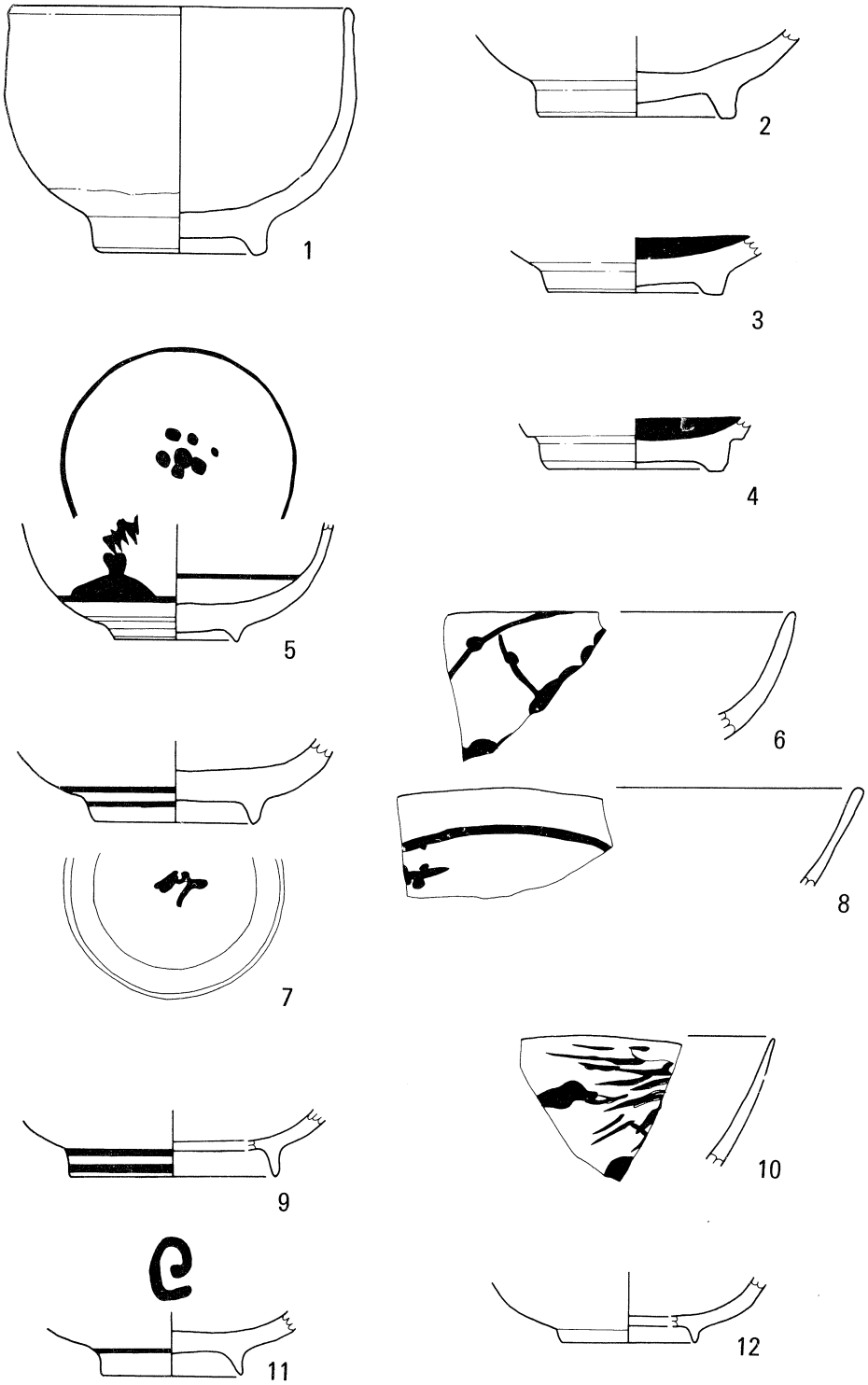
第7図　石　　器（1／2）



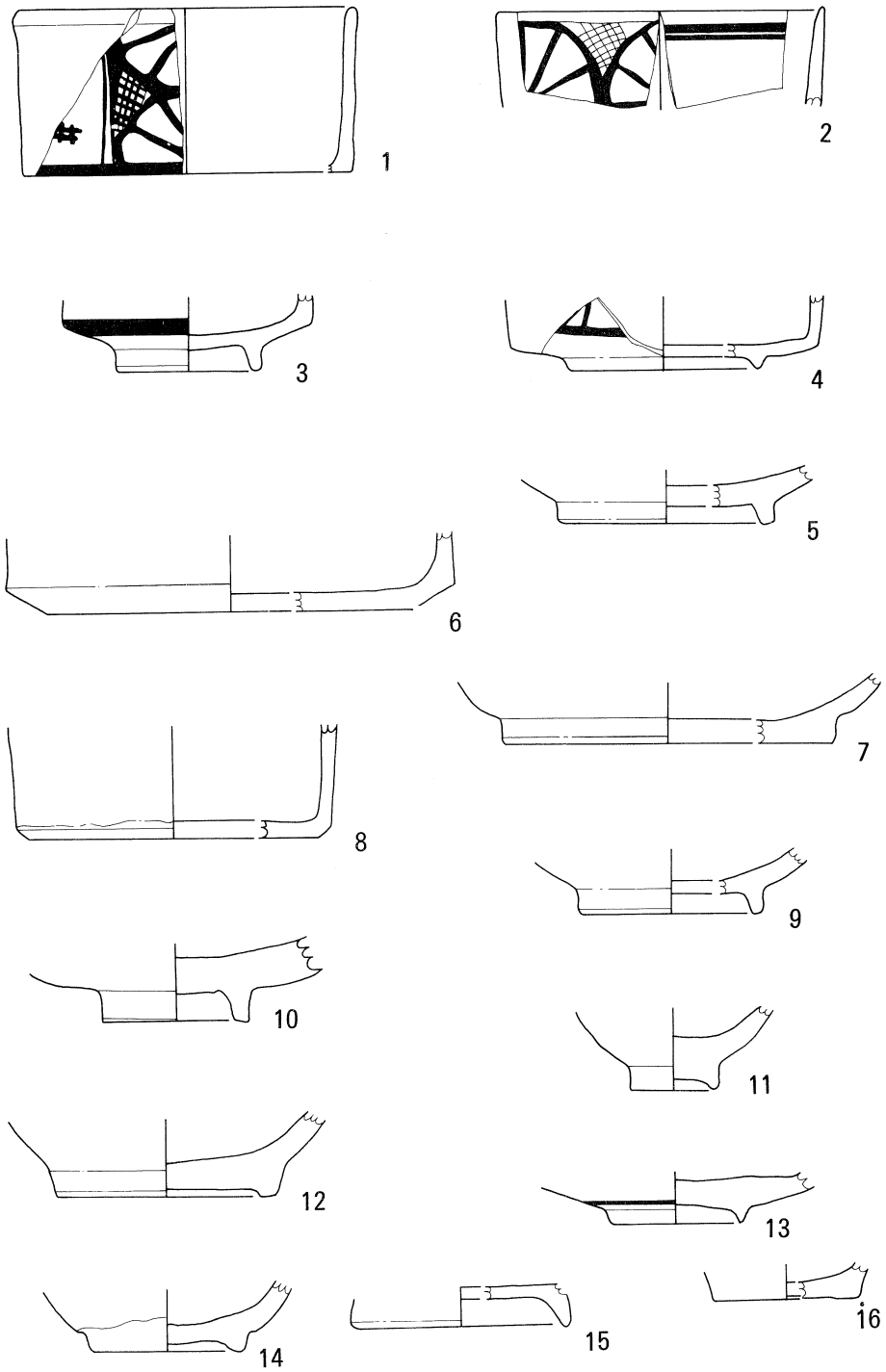
第8図　石　　器（1／2）



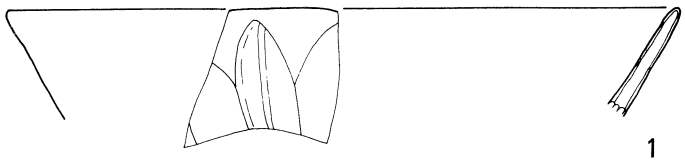
第9図　ほうろく（1／2）



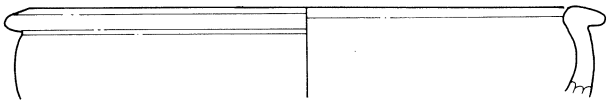
第10図　陶　磁　器（1／2）



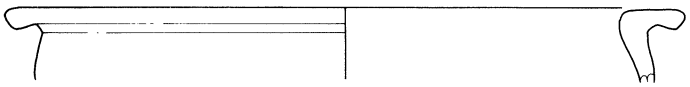
第11図　陶　磁　器（1／2）



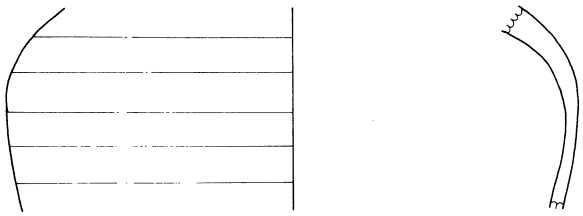
1



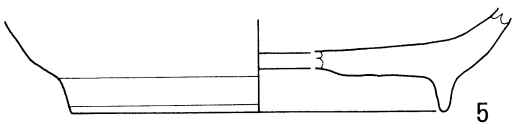
2



3

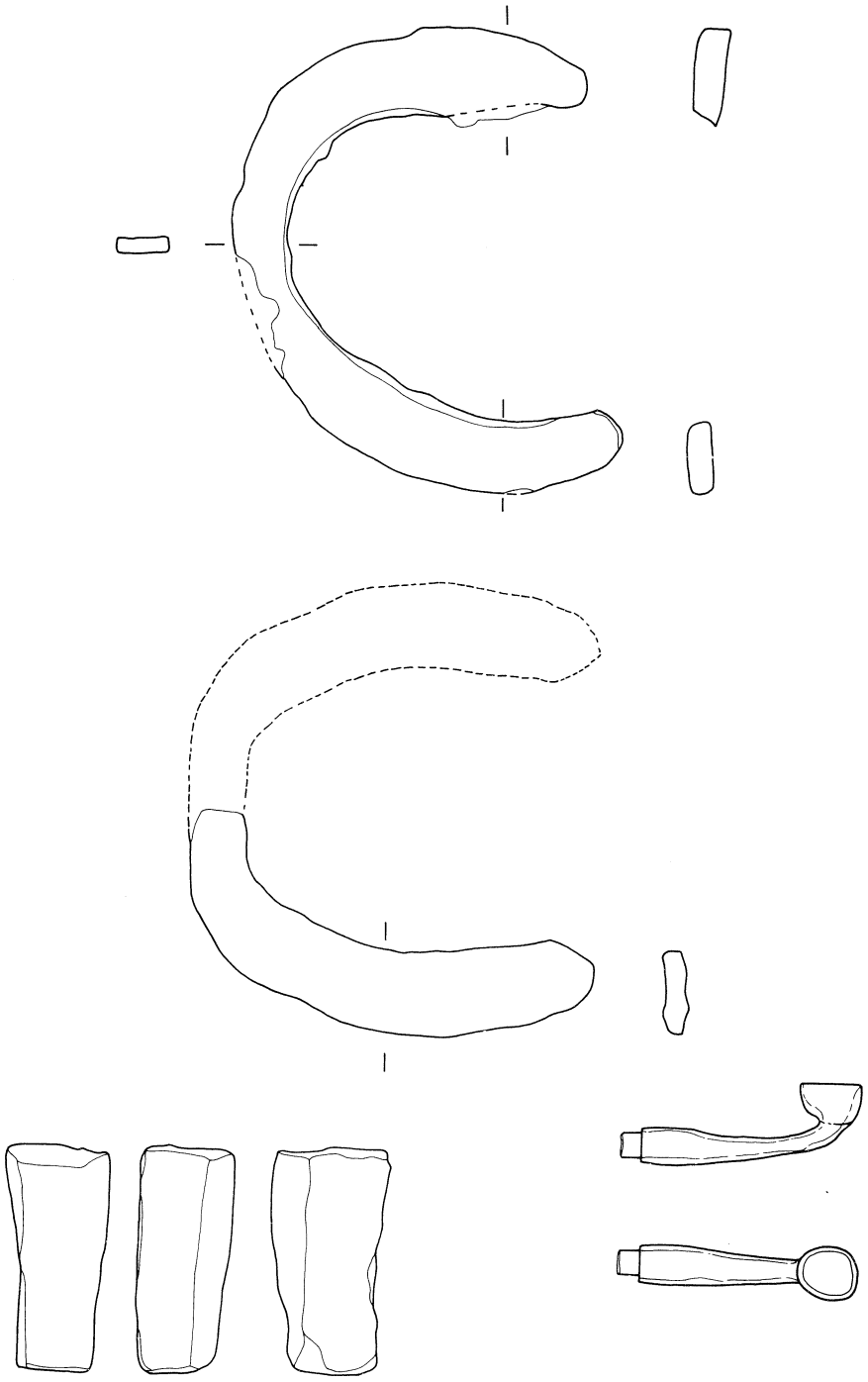


4



5

第12図　陶　磁　器（1／2）

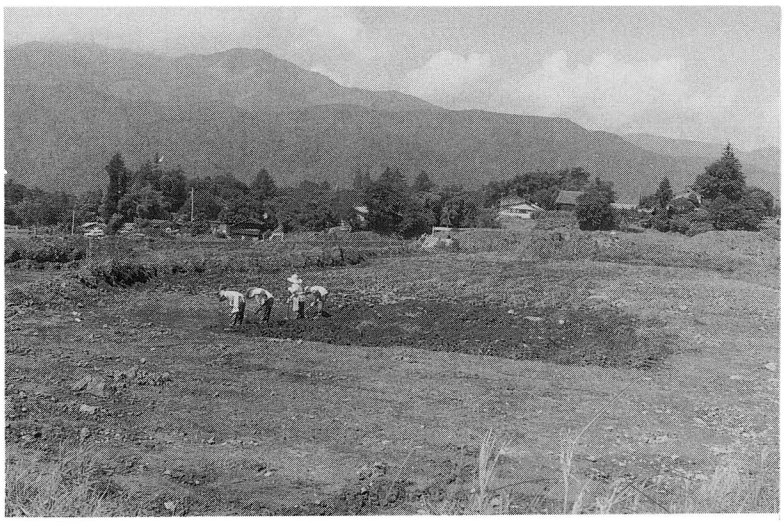


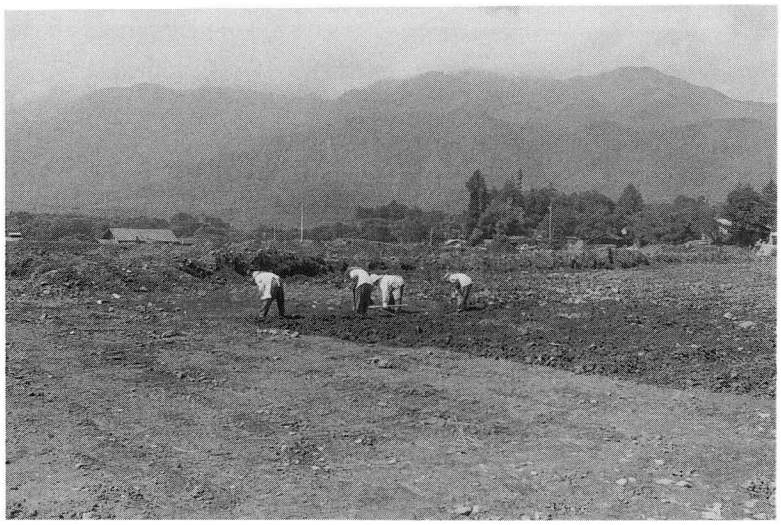
第13図　蹄鉄、キセル、砥石（１／２）

図　　版

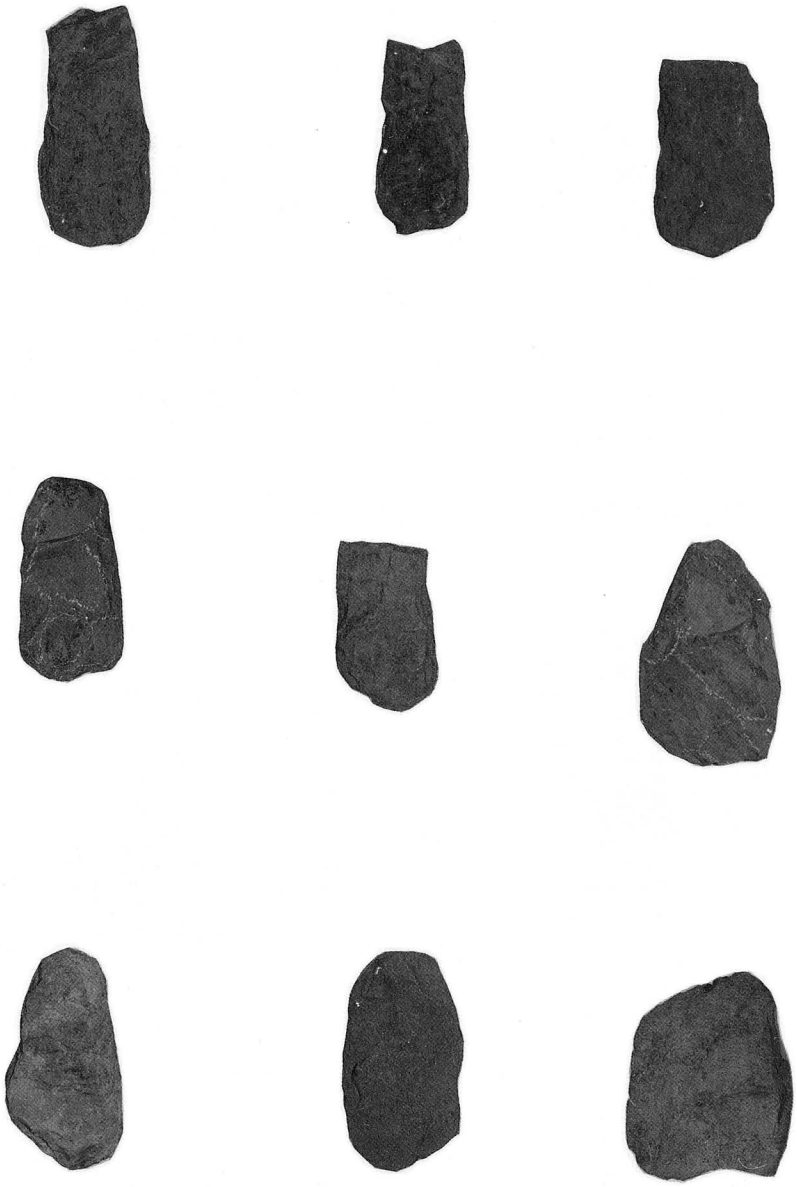
図版 1

図版 2

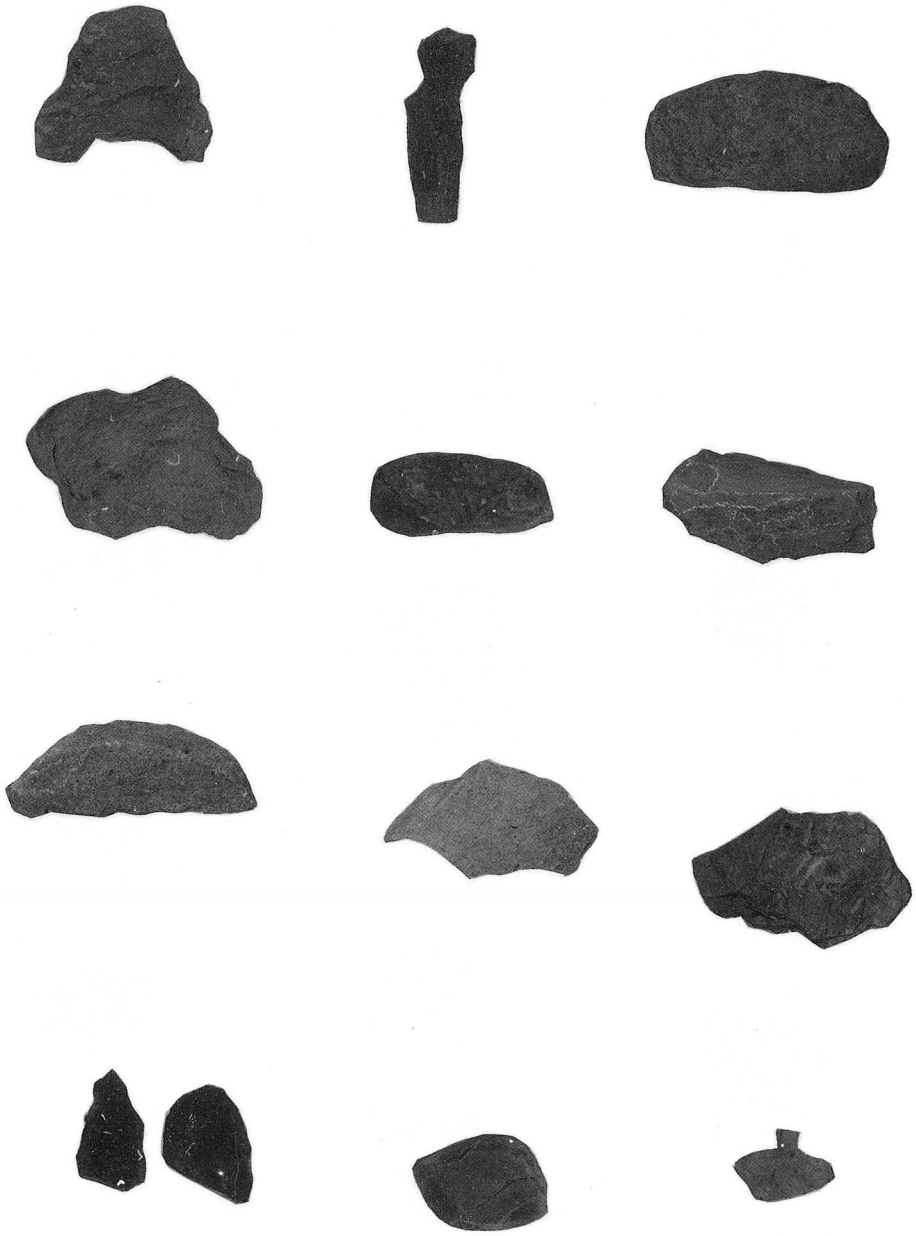




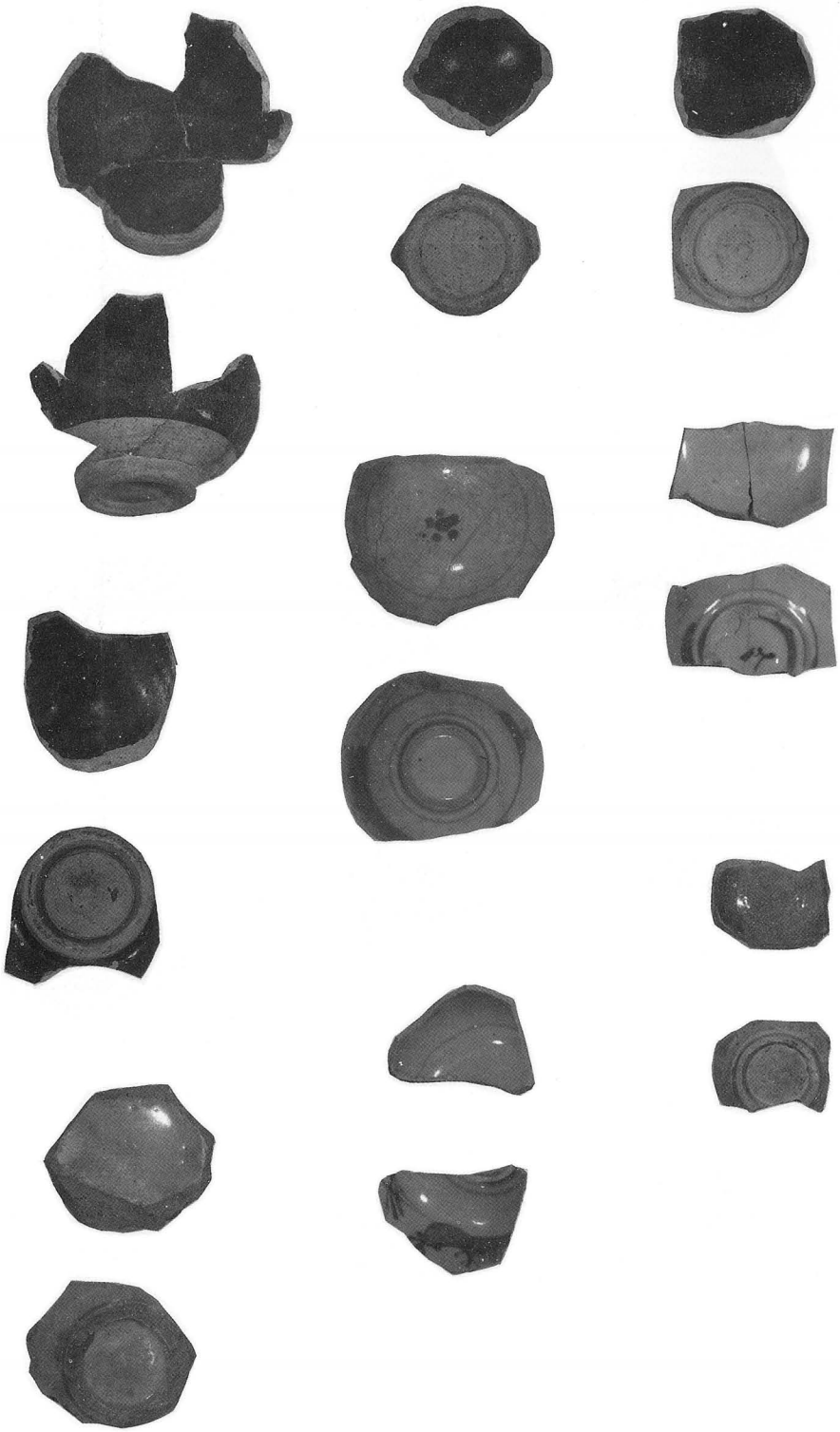
石　　器



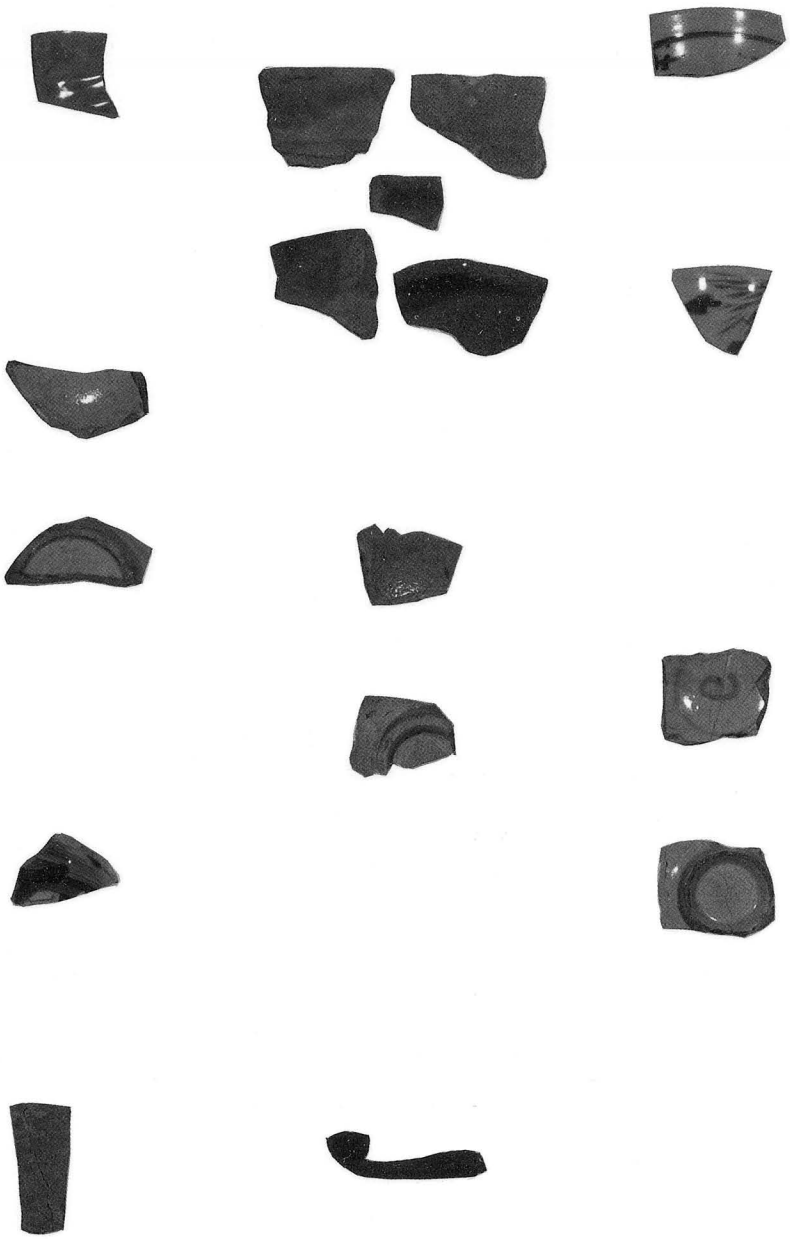
石　　器



石　　器



陶　磁　器



陶　磁　器

平成元年３月31日発行
小淵沢町埋蔵文化財調査報告書第７集

加　室　遺　跡

編集・発行　小淵沢町教育委員会
印　刷　所　峡北印刷株式会社